

富饒ノ地ナリ、殊ニ郡南葛西ノ邊ハ、江戸ニ近キヲ以テ、五穀ノ外ニモ菜蔬ヲ栽テ市ニ鬻ゲリ、其利モ少ナカラズ、又海濱ニ至テハ、漁獵ヲ餘業トセルモ多シ、サレバ農民ノ風俗ヤ、浮靡ニシテ、總テノ事大様江戸ノ俗ニ異ナラズ、又深川本所中之郷、及其邊ノ村ニモ、寛文ノ頃ヨリ次第ニ百姓商家出來テ、正徳年中、御府内町並ニ屬セン地モ少ナカラズ、〔萬葉集抄三〕かつしかとは下總國葛飾郡也、彼郡の中に大河あり、ふとると云、其川の東をば葛東郡といひ、西をば葛西の郡といふ、

〔北國紀行〕文明十九年二月ノ初、鳥越ノ翁、舩シテ隅田川ニ浮ブ、東岸ハ下總、西岸ハ武藏野ニ續ケリ、此川武藏ノ界ニテ、利根、入間ノ二川落合フ所ニ古渡アリ、

〔參考源平盛衰記 四十六〕時政實平上洛、附吉田經房、卿廉直事

伊藤本、八坂本云、○中北條サラバ十郎藏人殿、討テモ搦テモ得サセヨ、勸賞ハ功ニ依ベシト宣

ヘバ、常陸房畏テ承、左候バ中間十人ヲ給ハラント申、○中十郎藏人殿ヲバ手取足取鬻取テ生

捕ニコソハシタレケレ、○中懸テ常陸房ヲモ十郎藏人ノ首ニ添テ、鎌倉ヘコソ下サレケレ、鎌

倉殿神妙也、勸賞ニハ流セトテ武藏ノ葛西ヘゾ流サレケル、

〔吾妻鏡 十七〕正治三年八月十一日戊子、甚雨、午刻大風、郷里穿屋、○中下總國葛西郡海邊潮牽人

屋千餘人漂没云云、

〔鎌倉太草紙 下〕尊氏の御時、千葉の家ニ方ニわかれ、宮方將軍方とてありしが、宮方は九州ヘ下リ、其後終ニ下總ヘわたり給はず、關東は一統にてありけるが、今度また馬加は、成氏公と一味して原是を主として、千葉ヘ移り、千葉の跡を繼げる、其後原は小金の城に居住す、上杉より今度胤直と一所に討死ありし、申務入道子心の子息實胤、自胤二人を取立て、下總國市川の城に楯籠テ、禾葉又二流となる、○中康正二年正月十九日、終ニ城を攻落し、實胤は武州石濱ヘ落行